1803 GT82-C

同時給排(強制/自然)レンジフード 取付説明書

※機種により多少デザインが異なる場合があります。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

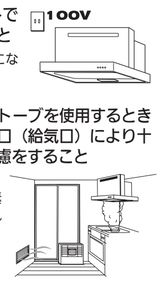
お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- ⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります（分解・修理・改造禁止）
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります（取付注意）
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります（取付注意）
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください（アースを取り付ける）
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります（取付注意）
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください（取付注意）
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります（埋込禁止）
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります（取付注意）
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります（使用禁止）
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります（取付注意）



⚠注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります（手袋をする）

- 整流板や部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります（取付注意）

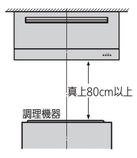
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります（取付注意）

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります（使用禁止）
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります（取付禁止）
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります（接触禁止）

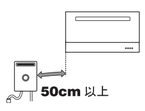
取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
・大工工事【設置のための下地工事等】
・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- ダクトの不燃処理について
  ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
  本体の取付用ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので、排気ダクト・給気ダクトには断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります（分解・修理・改造禁止）
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります（取付注意）
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください（取付注意）
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります（埋込禁止）
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります（取付注意）

⚠注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります（手袋をする）

- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります（取付禁止）
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります（取付注意）

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

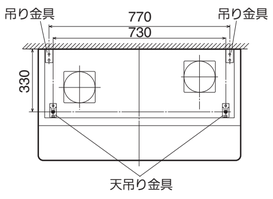
	製品単体質量
強制同時給排モデル	39.5 kg
自然同時給排モデル	36.5 kg

■板張りの場合
- 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

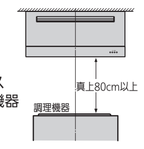
■土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 吊りボルトの設置
2本の吊りボルトを下図および製品寸法図を参照して天井部梁に取り付けます。
※ 吊りボルトはM10（市販品）を使用してください。
※ 吊りボルトは耐荷重200kg／本となるように取り付けてください。



3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

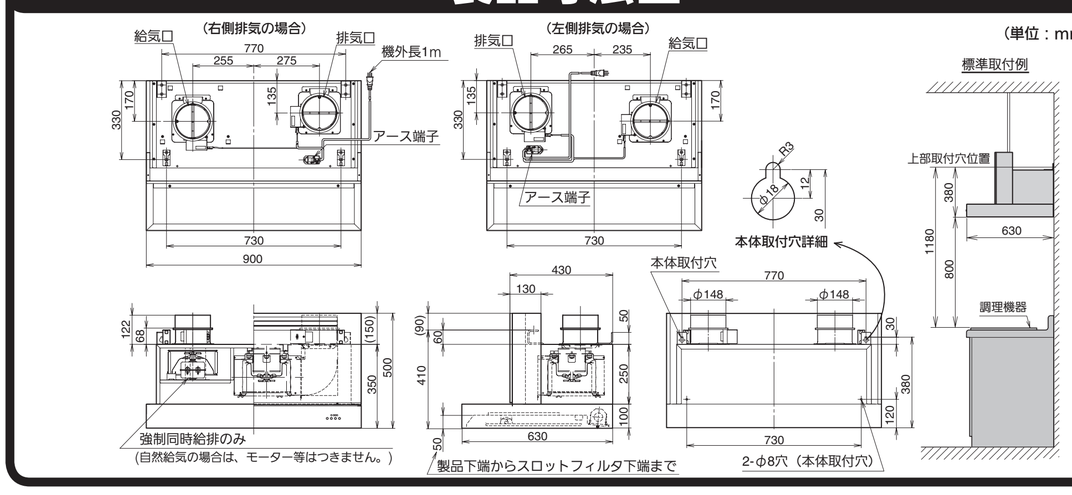


5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS C 8303 2極接地極付差込接続器15A 125Vをご使用ください。

お願い
必ずアース（D種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

製品寸法図

（単位：mm）



付属品

座付ねじ（φ5.1×45, 4本）
本体の取り付けに使います。

取付ねじ（M4×8, 10本）
給気口・排気口および給気幕板の取り付けに使います。

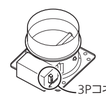
フランジ付き六角ナット（M10, 4個）
本体の取り付けに使います。

天吊り金具（2個）
本体の取り付けに使います。

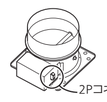
吊り金具（2個）
本体の取り付けに使います。

給気幕板（前ふた）（1個）
本体に取り付けます。

ソフトテープ（2本）
給気口・排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。

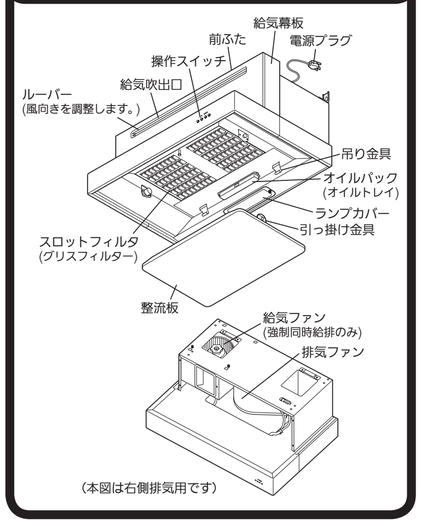


給気口（電動シャッター）（1個）
本体に取り付け、給気ダクトとの接続に使います。



排気口（電動シャッター）（1個）
本体に取り付け、排気ダクトとの接続に使います。

各部のなまえ



取り付けかた

1．付属品の確認

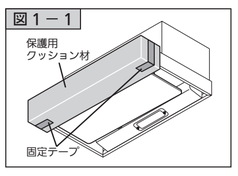
⚠注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります（手袋をする）

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
・取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。
・保護用のクッション材と固定テープは「9．試運転の準備」手順**1**まではずさないでください。（図1－1）

図1－1

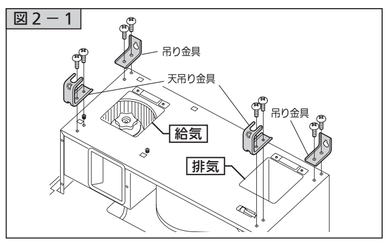


2．本体の準備

■ご注意　本製品は右側排気用と左側排気用の2種類があります。取り付けの前に確認してください。
本説明書は右側排気用の図で説明しています。左側排気用の場合は給気口・排気口の位置が逆になりますが、取付方法は同じです。

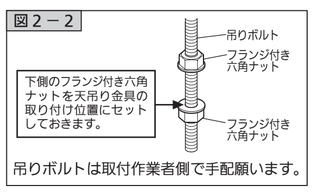
1 吊り金具・天吊り金具を取り付けます。（図2－1）
本体の天板に2本ずつあらかじめ取り付けられているねじを使用し、付属品の吊り金具および天吊り金具各2個を天板へ取り付けます。

図2－1



2 吊りボルトに付属のフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図2－2）
吊りボルトの下側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取り付け位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくと後作業が容易になります。

図2－2



吊りボルトは取付作業者側で手配願います。

3．給気・排気ダクトの準備

⚠警 告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります（取付注意）
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります（取付注意）
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください（取付注意）

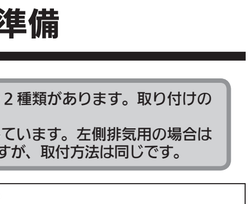
⚠注 意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります（使用禁止）
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります（取付禁止）

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）

図3－1



4．給気用・排気用部品の取り付けと接続

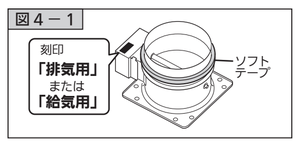
※「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口・排気口を用意してください。

■ 給気口・排気口の取り付け

1 給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼ります。（図4－1）

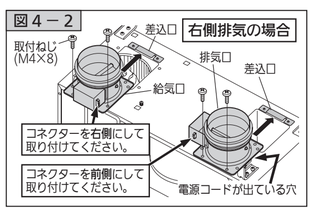
お願い
手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

図4－1



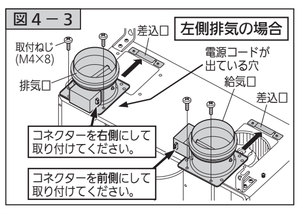
2 給気口および排気口を本体に取り付けます。（図4－2, 図4－3）
1）給気口および排気口のコネクター位置を基準に、それぞれの取付方向を確認します。
2）給気口・排気口を本体上面の各差込部に差し込み、それぞれ付属品の取付ねじ2本で取り付けてください。

図4－2



お願い
・右側排気・左側排気の場合で給気口・排気口の取付位置が異なりますのでご注意ください。
・付属品の給気口・排気口にはそれぞれ「給気用」「排気用」と刻印されています。
また、各取付位置の近傍には指示シールが貼ってあります。
取り付けの際は両方をよく確認の上、取付口を間違えないようご注意ください。

図4－3



■ 電動シャッターへの信号線の接続（図4－4）

1 給気電動シャッターを接続します。
コネクター接続部（3Pコネクター）にレンジフード本体の信号線（3Pコネクター）を接続します。

2 排気電動シャッターを接続します。
コネクター接続部（2Pコネクター）にレンジフード本体の信号線（2Pコネクター）を接続します。

図4－4

お願い
●コネクターの接続は確実におこなってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
●コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

5．本体の取り付け

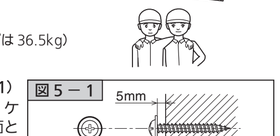
⚠注 意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります（取付注意）

- 作業は2人以上でおこなうこと
  製品は約39.5kg（自然同時給排タイプは36.5kg）の重さがあります。（取扱注意）

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図5－1）
製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各1ケ所）に付属品の座付ねじ（φ5.1×45）を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。

図5－1



2 本体を壁面に引っ掛けます。
本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら、ダクトに給気口・排気口を差し込み（図5－2①）、手順**1**で壁面に取り付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けます。（図5－2②）

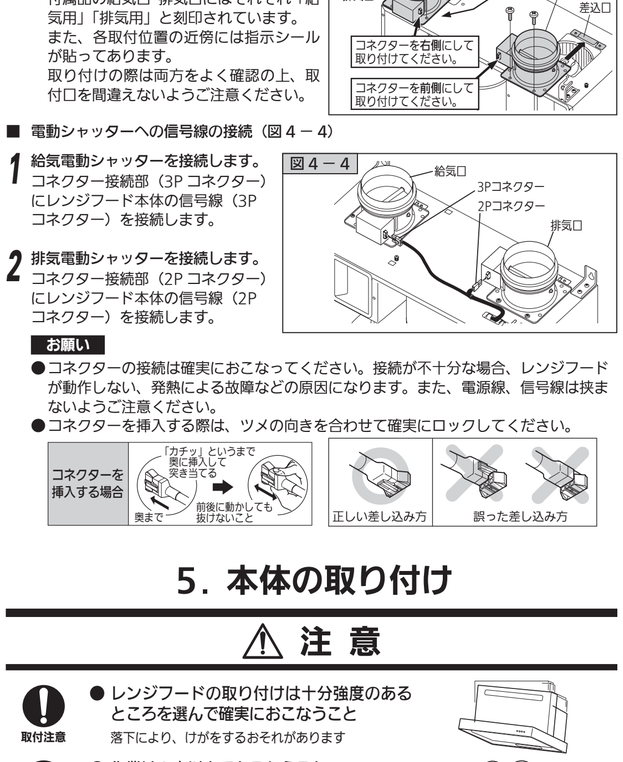
3 上側のフランジ付き六角ナットで天吊り金具をしっかり締め付けて固定します。（図5－2③）

4 だるま穴用座付ねじをしっかりと締め付けます。（図5－2④）

お願い 本体の水平度を確認しながら固定してください。

5 本体下側を付属品の座付ねじ（φ5.1×45）2本でしっかりと締め付けます。（図5－2⑤）

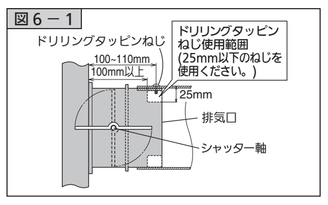
図5－2



6．ダクトと給気用・排気用部品の接続

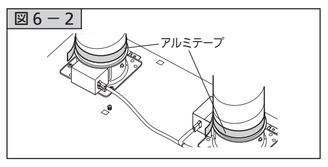
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図6－1）

図6－1



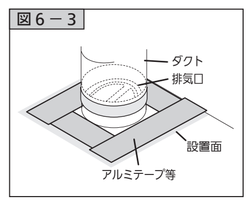
ダクト接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図6－2）

図6－2



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図6－3）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

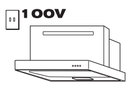
図6－3



7．電気配線

⚠警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります（分解・修理・改造禁止）
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります（使用禁止）



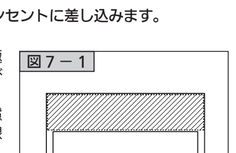
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります（取付注意）
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください（アースを取り付ける）

1 アース（D種接地工事）を取ります。
※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
・電源は専用のコンセント（2極接地極付差込接続器15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
・コンセントは電源コードの長さを考慮し、幕板のサイズに合わせて図の斜線の範囲内に設置してください。
（図7－1）

図7－1

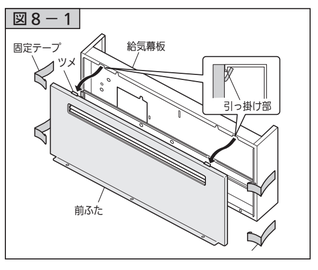


8．給気幕板の取り付け

1 前ふたをはずします。（図8－1）
給気幕板と前ふたを梱包箱から取り出し、固定テープを剥がして前ふたをはずします。

お願い
給気幕板・前ふたは変形させないよう、十分ご注意ください。

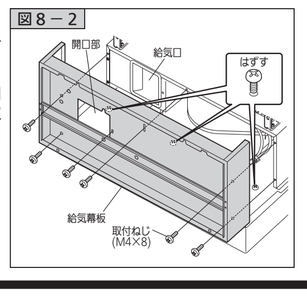
図8－1



2 給気幕板を取り付けます。（図8－2）
1）本体に取り付いている前ふた取付ねじ3本（M4×8）をはずします。
2）給気幕板の開口部が本体の給気口側になるようにセットし、付属品の取付ねじ（M4×8）6本で取り付けます。

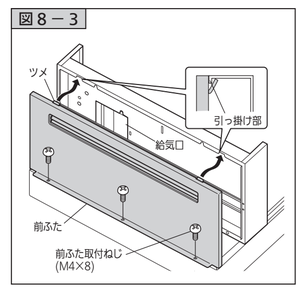
お願い
電源コードをはさまないよう、十分ご注意ください。

図8－2



3 前ふたを取り付けます。（図8－3）
前ふた上部のツメを給気幕板に引っ掛け、手順**2**ではずした前ふた取付ねじ（M4×8）3本で本体に固定します。

図8－3



9．試運転の準備

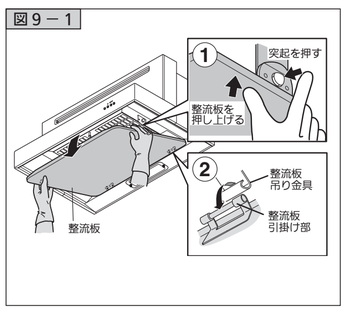
保護用クッション材を一時取りはずします。
「10. 試運転」完了後、保護用クッション材を元のように取り付けてください。

1 整流板をはずします。（図9－1）
1）整流板の左右を両手で支え、少し押し上げます。

お願い
整流板を落とさないように両手でしっかりと支えてください。

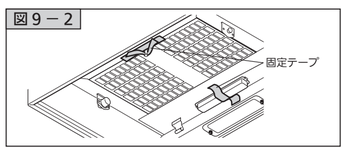
2）左右の突起を押し込みながらゆっくりと10cm程度おろした状態で、整流板を少し奥に押し上げながら上に持ち上げ、整流板吊り金具からはずして手前に取りはずします。

図9－1



2 スロットフィルタおよびオイルパックを固定している固定テープをはがします。（図9－2）

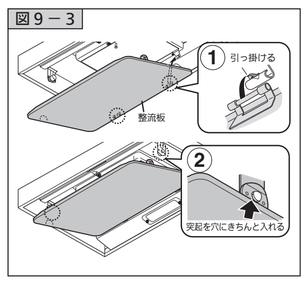
図9－2



3 整流板を取り付けます。（図9－3）
1）整流板引掛け部をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。
2）前端をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込みます。
3）整流板を軽く上下に動かしてみて、確実に取り付けられたことを確認してください。

お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

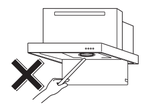
図9－3



10. 試運転

⚠注 意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります（接触禁止）



■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 前ふたのルーバーを調整して、給気風が天井面や直接顔に当たらない位置にセットしてください。（詳しくは取扱説明書をご覧ください。）
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

11. お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ −FUJIOH− 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754（営業部）